

令和5年10月30日

コンサートホールチーム所属
企画制作担当：市橋由里葉

ACT Project

主催：東京音楽大学 ACT Project 協働：公益財団法人 和光市文化振興公社

『SUNAZALEA アクト企画 vol.1 嘉屋翔太ピアノリサイタル』

報告書

■ 2023年10月16日(月) 14:30開場 / 15:00開演
和光市サンアゼリア小ホール



はじめに

本報告書では、10月16日(月)、和光市民文化センターサンアゼリアにて[公益財団法人 和光市文化振興公社]協働のもと開催された、東京音楽大学 ACT Project 主催『SUNAZALEA アクト企画 vol.1 嘉屋翔太ピアノリサイタル』の活動内容を報告する。本公演の活動目的、経緯、業務内容、活動成果、得た学びや気づき、所感について述べる。

1. 概要

企画名：SUNAZALEA SUPPORT PROGRAM 『SUNAZALEA アクト企画 vol.1 嘉屋翔太ピアノリサイタル』

日時：令和5年10月16日（月）14：30開場/15：00開演

会場：和光市民文化センターサンアゼリア 小ホール

主催：東京音楽大学 ACT Project（ホールチーム）

協働：公益財団法人 和光市文化振興公社

出演者：嘉屋翔太（ピアノ，修士1年）※2023年度現在

スタッフ：市橋由里葉，坂本夏樹先生，榎田有玖，針生侑乃，笛木和，高橋紫緒夢，富山耀子，宮内琴乃

2. 詳細

1) 目的

国内外で演奏活動しているピアニストと、近い距離でトークや生演奏を楽しむことができるオープンなリサイタル形式により、クラシックコンサートの垣根を取り払い、市民の皆さまに気軽にレベルの高い音楽と時間を提供する。

2) プログラム

前半：

シューマン=リスト：「献呈」S.566

シューマン：トロイメライ Op.15-7

ショパン：ノクターン第2番 変ホ長調 Op.9-2

ラフマニノフ：前奏曲 嬰ハ短調 Op.3-2 「鐘」

ショパン：ポロネーズ第6番「英雄」変イ長調 Op.53

後半：

ブラームス：ピアノ・ソナタ第1番 ハ長調 Op.1

計約1時間

3) チケット

値段：一般1000円，サンアゼリア友の会500円，当日券一律1000円

予約方法：Google フォーム

4) 演出の工夫

- ・座席は前から順位詰めてご着席いただく
- ・照明は前半は少し明るく、後半は出演者にピンスポット
- ・曲間に必ずトークを入れる

3. 経緯

出演者のキャスティングでは、話題性があり、実力とトーク力を兼ね備えた嘉屋翔太を起用することとした。プログラムの選定においては、ACT Project において和光市での企画は初めてであることから、ターゲット層を広げるために名曲を多く取り入れ、チケットは比較的安価である 500～1000 円の料金設定に定まった。

出演者と幾度か打ち合わせを重ねていく過程で、以下の意向を伺った。

- ・ 格式はあるけど敷居は低く
- ・ なるべく明るい雰囲気
- ・ 観客と演奏者の距離が近いオープンなコンサート
- ・ 親しみやすい名曲から始まってクラシックに触れていき、最後は知らなかった世界を知ってほしい
- ・ 聴衆が教養を得られるように
- ・ 有名曲、小曲の区別をしっかりと
- ・ メインになる曲は集中力持って聴いてほしい

上記の意向に沿い、話し合いの末、以下の内容に終結した。

- ・ 前半は小品の名曲集、後半は大曲のブラームスのソナタ（メイン）
- ・ 照明は前半は明るく、後半は出演者にピンスポット（客席は暗く）
- ・ ピアノを客席により近く配置

当初は、サロンを模したカジュアルな形態をとり、ホール内での飲食が可能なコンサートを目指していたが、施設の規則上不可能であったため、照明や座席配置等で工夫するに至った。

4. 広報

手段は以下の通りである。

SNS (Instagram, X) , 他公演での挟み込み, 和光市広報誌の掲載, サンアゼリア友の会 DM, チラシラックに配置

5. 当日の業務とその様子

【開場前】



【リハーサル】



ピアノの位置や照明の明度を念入りに確認。

【開演後と終演後】



当日は8名のスタッフによって運営された。開場前から多くのお客様にお越しいただき、開演前には既に賑わいを見せていた。総来場者数は当日券含め69名に及ぶ。初めての土地で平日の昼間における開催であったため、来場者数は50名を目標としていたが、予想を超える結果となった。リハーサルでは、照明の明度において出演者と意見を交わしながら念入りに確認し、この企画のねらいの実現に努めた。少しの明度の違いでも会場内の印象が変化するという知見を得ることができたのは貴重である。開場してまもなく、開演すると和やかな雰囲気が始まった。後に出演者から伺った話では、会場は非常に温かい空気に包まれていたという。出演者とお客様間の距離を縮めるために前列から順に詰めてご着席いただいたことや、ピアノを客席により近く配置したことが、親しみのもてる空間作りに寄与したのだと考える。

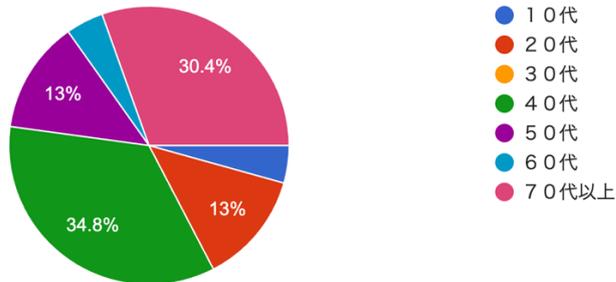
終演後は多くのお客様から賛辞をいただいた。その中でも特筆すべきはプログラムの構成である。穏やかな曲や勇壮な曲、技巧にとんだ曲と変化をもたせ、老若男女楽しめるよう熟慮を重ねた構成が功を奏した。そうして当演奏会は、多くの方々のご協力を賜り、無事成功裏に終わった。

6. アンケート結果

ACT Project の今後の活動の参考にするため、アンケートを集計した。結果を以下に記載する。

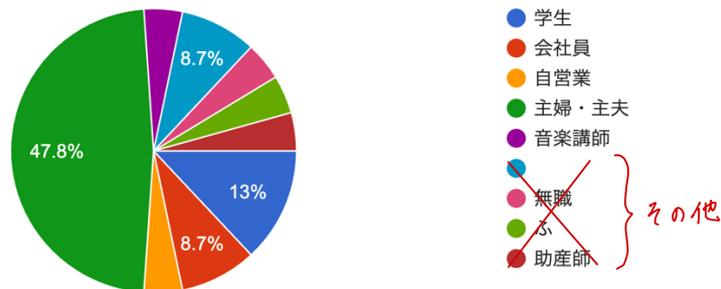
1)

ご年齢
23件の回答



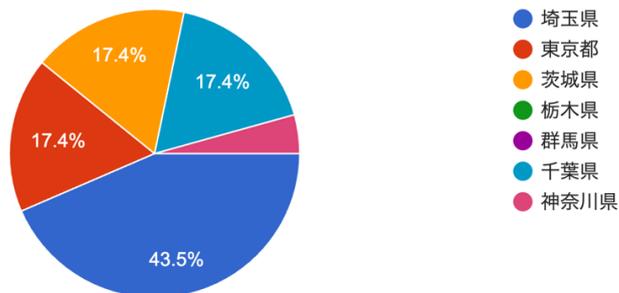
2)

ご職業
23件の回答



3)

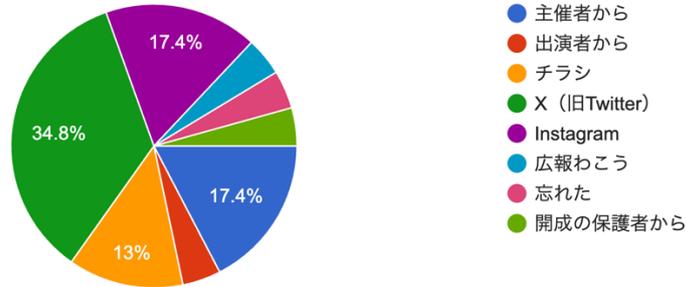
本日はどちらからいらっしゃいましたか？
23件の回答



4)

本日の公演をどちらでお知りになりましたか？

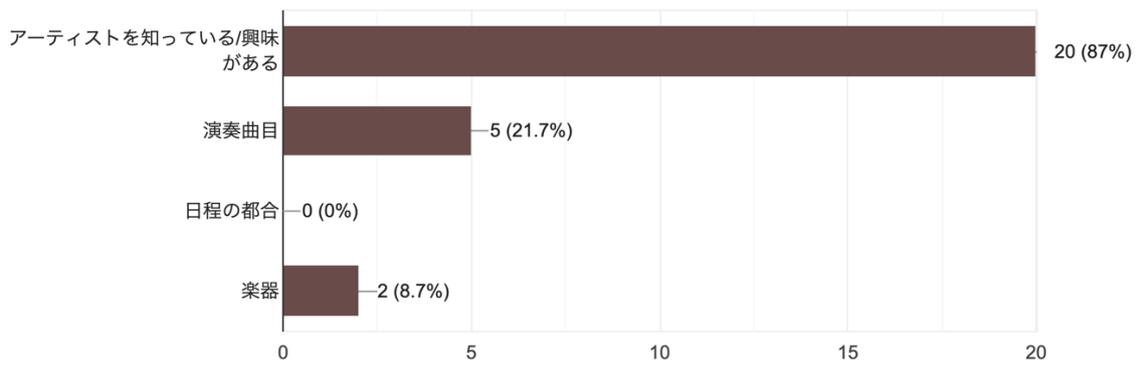
23件の回答



5)

本日のコンサートにお越しいただいた理由をお聞かせください。

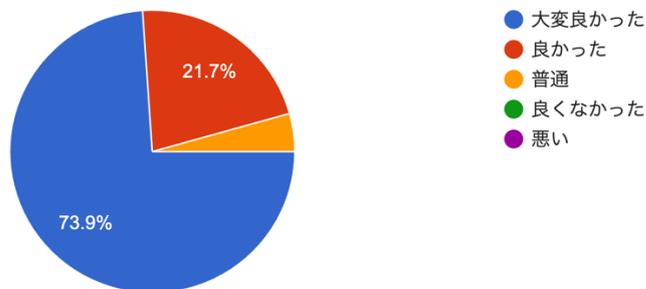
23件の回答



6)

本日のコンサートはいかがでしたか？

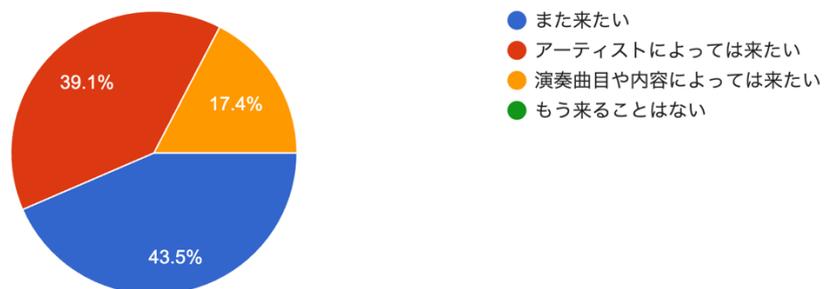
23件の回答



7)

またご来場いただけますか？

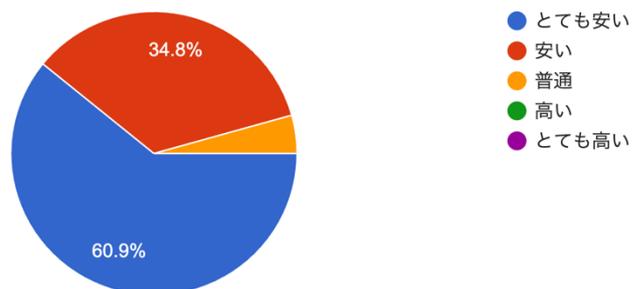
23 件の回答



8)

チケットの料金について

23 件の回答



上記の通りである。

客層は40代が最も多く、「主婦・主夫」がほぼ半数を占めている。次いで70代、その下は20代と50代が同数であった。来場者は関東地方で埼玉県が最も多いが、その他は比較的満遍なく分布されている。応報においては、X（旧 Twitter）や Instagram への票数が多いことから、集客において最も効果的な手段は SNS といえよう。また、アーティストに興味を持ってご来場いただいた方が多いことから、当演奏会の客層の大半は出演者の SNS から情報を得てご来場いただいたことがわかる。企画制作において、出演者のキャスティングは最も重要な成功要因の一つであることを改めて感じる結果となった。

7. 学びや気づき

今回はソロリサイタルであるため、客層はコアなファンが大半を占めているように感じられた。企画の作成段階では、初めての土地における開催であることから、集客率を高めるために幅広い客層に受ける名曲を多く取り入れたいが、一方で、コアなファンにも楽しんでいただきたいという想いの狭間で揺れていた。クラシックの教養が比較的高い層にとって、小品の名曲のみであると物足りなく感じられるため、大曲であるブラームスのソナタを後半に組み込んだ構成は、演奏会の満足度向上に寄与した大きな要因といえよう。他にも同じく苦慮した一件として、チケットの価格設定が挙げられる。アーティストの知名度や実力を鑑みれば価格は上積みされるが、和光市においてはACT Project初の試みであることから、最終的には低価格での販売に至った。しかしながら、アンケートの結果（8）から分かる通り、料金が安いと感じた来場者は9割を超えている。価格は集客率に影響を及ぼすためリスクヘッジを図ったが、ソロリサイタルにおいてはアーティストの適正価格に、より近く定めたところで支障をきたさないと考える。これらのことから、出演者、及び来場する客層とその需要を入念に調査することが、企画の制作において非常に肝要な点であることを実感した。

当日は、ACT Project外の学生からも多くのスタッフが参加したが、後に集計したアンケートでは、スタッフの対応に関する多くの賛辞をいただいた。「受付は序章である」。お客様の言葉はまさしくその通りであると感じる。演奏会の空間作りはホール内だけではなく、会場全体で行うものであるということを今後も肝に銘じておきたい。

8. 塚田美穂様よりコメント

当演奏会の実施において多大な御助力を賜った、公益財団法人和光市文化振興公社、塚田美穂様より、このサポートプログラムを通じて得られた所感をご教示いただいた。

以下にその内容を記載する。

“取組み全体を見ても熱意があり、好印象を持ちました。

意欲的に、建前ではなく本心から取り組んでくれました。前向きな努力家だと思います。

また、事業企画に対する知的欲求、好奇心も旺盛でした。

打合せに来館した際や当日の運営の際にもあいさつ、言葉遣い共にしっかりしていました。

事業の進め方に関しても、こちらの指示やアドバイスに対してその内容への理解を深めるよう努力しており、自分でも良く考えている様子が見られました。

それらをきちんと実践してくれたことも評価したいです。

公演開催時に現場での踏み込んだ質問がもっと多くあっても良かったのではと感じました。なかなか難しいかもしれませんが、「何故これを行っているのか?」、「これにはどんな意味があることなのか?」などを自分から知ろうとすることも大事なことです。

本事業は学生が「事業企画・運営」を直接体験できる貴重な場であり、これからの未来を担う学生たちの人材育成の繋がるように、協力していきたいと思っております。”

9. 嘉屋翔太（出演者）よりコメント

“まず、和光市民文化センター・サンアゼリアと ACT プロジェクトの初めての共催という機会に、ソリストとして演奏の場を頂き光栄に思います。

貴重な場を用意してくださった和光市の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

そして今回、企画段階から演奏者の意図を汲んだ素晴らしい運営をしてくださった ACT チームの皆さんに、心から御礼申し上げます。奏者と聴衆の距離を近くするというコンセプトを見事に実現してくださりました。

これまでに何度か ACT プロジェクトの演奏会に参加させて頂きましたが、ソロリサイタルは初めての取り組みでした。ACT が得意とするカジュアルな雰囲気コンサートの作りにおいては、特に集客面において、出演者が少ないことが企画の難易度を高めてしまいます。その上、平日昼の開催という条件が集客をさらに難しくしていたのは間違いありません。

しかしながら企画チームの献身的な努力によって、当日はホール側の想定を大幅に超えるお客様にご来場頂きました。的確なスケジューリングに加え、前例に囚われないチラシやプログラムの作成・SNS を用いた宣伝など、一際熱心な運営にモチベーションを高めてもらったことは言うまでもありません。常に演奏者と運営にコミュニケーションが図られている点に安心感を得ることができました。

終演後のアンケートでは温かいコメントとともに、演奏そのものに対する声も頂きました。それはお客様が熱心に耳を傾けてくださった故の反応であり、演奏会の質が評価を加えるに値する物であった証左とも言えます。今後の演奏活動の中で、再び和光市に於いて、より一層拘りを持った演奏をお届けすることができるよう精進して参ります。”

10. 自身の所感とまとめ

企画制作を手掛けるのは今回が初めての機会であったが、非常に多くの知見を得ることができた大変貴重な経験となった。客層の需要や出演者の希望に対する実現可否など、理想を追い求める最中で多くの相対する現実に思いあぐねる事案が多く、企画制作の難しさを痛感した。しかしながら、終演後、来場者が笑顔で帰られていく様子は筆舌に尽くしがたく、音楽事業に携わることの醍醐味を味わえたように思う。この経験で得た知見を今後の活動に生かしていきたい。

おわりに

この企画に多大な御助力を賜りました公益財団法人 和光市文化振興公社の皆様はじめ、ご担当者の塚田美穂様、ACT Project のアドバイザー智内威雄先生、坂本夏樹先生、サポートメンバー、当日のスタッフをしてくれた学生の皆様、そして出演者の嘉屋翔太様、この度は『SUNAZALEA アクト企画 vol.1 嘉屋翔太ピアノリサイタル』にご協力いただきまして誠にありがとうございました。心より重ねて御礼申し上げます。

■資料一覧

・チラシ



嘉屋 翔太 Shota Kaya, piano

2000年生まれ。開成中学・高等学校を経て東京音楽大学に進学、現在同大学院修士1年在籍。第10回フランツ・リスト国際ピアノコンクール(ワイマール)にて最高位の第2位に入賞し、同時に聴衆賞、サン・サーンス最優秀解釈賞を受賞。室内楽や管弦楽作品への造詣の深さを活かした多面的な作品解釈において高い評価を受けている。2022年9月には自身初となるCD「Voice of Liszt」をリリースした。2023年、ドイツのゴータ・アイゼナハにて開催された音楽祭「Liszt Biennale」に招待され、チューリンゲン・フィルハーモニー管弦楽団と共演。国内外のオーケストラとの共演や室内楽などに加え、作編曲等にも取り組みいずれも好評を博す。現在、佐藤彦大、ギグラ・カツアラヴァの各氏に師事。2022年度よりヤマハ音楽支援制度奨学生。2023年チャンネル・ビッグマリオン・デイズ・アーティスト。

SUNAZALEA
SUPPORT PROGRAM

©KOHAN

ワイマール・リスト国際ピアノコンクールを制した、新進気鋭のピアニストが贈る
至高のクラシック名曲集。
作曲家の思い描いた世界を
目の当たりにする、
午後の至福のひとつとき

PROGRAM

R. シューマン=F. リスト: 「献呈」 S.566
R. Schumann=F. Liszt: "Widmung" S.566

R. シューマン: トロイメライ Op.15-7
R. Schumann: "Träumerei" op. 15-7

F. ショパン: ノクターン第2番 変ホ長調 Op.9-2
F. Chopin: Nocturne No. 2 in E-flat major, op. 9-2

S. ラフマニノフ: 前奏曲「鐘」嬰ハ短調 Op.3-2
S. Rachmaninoff: Prelude in C-sharp minor, op. 3-2

F. ショパン: ポロネーズ第6番「英雄」変イ長調 Op.53
F. Chopin: Polonaise No. 6 "Héroïque" in A-flat major, op. 53

J. ブラームス: ピアノ・ソナタ 第1番 ハ長調 Op.1
J. Brahms: Sonata No. 1 in C major, op. 1

2023 10.16 月
15:00開演 (14:30開場)

和光市民文化センター
サンアゼリア小ホール

全席自由 一般: 1,000円
サンアゼリア友の会: 500円
当日券: 一律 1,000円

嘉屋翔太
ピアノ・リサイタル

KAYYA SHOTA
Piano Recital



ご予約はこちら



東武東上線・東京メトロ有楽町線/副都心線
「和光市駅」南口から徒歩13分
〒351-0192 埼玉県和光市広沢1-5

SUNAZALEA アクト企画 vol. 1
主催: 東京音楽大学 ACT Project
協働: 公益財団法人 和光市文化振興公社
お問合せ: acthall.tcm@gmail.com



嘉屋翔太公式SNS
(QRコードより)

・プログラム (冊子：表, 裏)

Profile Shota Kaya (piano)

2000年生まれ。3歳半よりピアノを始める。
 開成中学・高等学校卒業後、東京音楽大学に進学。現在同大学院修士1年に在学。
 高校在学中の2017年、ウィーン国立音楽大学にてマスタークラスを受講しディプロマを取得。第43回PTNAピアノコンペティションPre特級金賞、同第47回特級入賞をはじめ、国内コンクールに於ける受賞多数。
 2021年、第10回フランス・リスト国際ピアノコンクール(ワイマール)にて最高位の第2位に入賞し、同時に聴衆賞、サン・サーンズ最優秀解釈賞を受賞。ピアニストとしての視点に留まらず、室内楽や管弦楽作品への造詣の深さを活かした多面的な作品解釈において高い評価を受けている。
 2022年9月には自身初となるCD「Voice of Liszt」をリリースした。
 2023年、ドイツのゴータ・アイゼナハにて開催された音楽祭「Liszt Biennale」に招待され、チューリングゲン・フィルハーモニー管弦楽団と共演。ピアニストとしてソロでの演奏活動、国内外のオーケストラとの共演、室内楽など様々な分野に亘って精力的に動じも傍ら、作編曲等にも取り組みいずれも好評を博す。
 これまでに石井克典、菊地裕介、佐藤彦大、武田真理、ファルカシュ・ガーボル、ギグラ・カヴァラヴァ、故野島稔の各氏に師事。2022年度よりヤマハ音楽支援制度奨励学生。チャンネル・ピグマリオンフェスティバル2023参加アーティスト。

ACT Project

“ACT Project”とは、コンサートの企画・制作を通して、授業だけでは学べないメディアリテラシーや社会人としての基礎力を身につけることを目的に、2005年より東京音楽大学が取り組んでいるキャリア育成プログラム。企画立案や進行、運営などはすべて学生によって行われている。

今後の公演
 SUNAZALEA SUPPORT PROGRAM 『SUNAZALEA アクト企画 vol. 2 ～陸上自衛隊×ACT Project～』
 日時：2024年3月1日(金)
 場所：和光市民文化センター サンアゼリア

SNS



嘉屋 翔太



演奏会のご感想をぜひお聞かせください。
 アンケートのご回答はこちらのQRコードから
 お願い申し上げます。



KAYA SHOTA
 嘉屋翔太
 ピアノ・リサイタル
 Piano Recital

October 16, 2023
 START 15:00

© KOHÁN

SUNAZALEA SUPPORT PROGRAM
 東京音楽大学 ACT Project Presents vol.1

PROGRAM

シューマン=リスト:「献呈」S.566
 シューマン: トロイメライ Op. 15-7
 ショパン: ノクターン第2番 変ホ長調 Op. 9-2
 ラフマニノフ: 前奏曲 嬰ハ短調 Op. 3-2 「鐘」
 ショパン: ポロネーズ第6番「英雄」変イ長調 Op. 53

ブラームス: ピアノ・ソナタ第1番 ハ長調 Op. 1

和光市民文化センター
 サンアゼリア

リサイタルに寄せて

本日は「嘉屋翔太 ピアノリサイタル」にお越し頂き、ありがとうございます。自身初となる埼玉でのリサイタルが、このような美しいホールで実現できることを大変嬉しく思います。ご助力賜った全ての方々に、この場を借りて感謝申し上げます。
 今回のプログラムは、老若男女を問わず誰もがクラシック音楽の魅力を味わえることを目指しています。少しでも多くのメロディーが、ハーモニーが、皆様の心のどこかに秋の思い出として残れば、これほど嬉しいことはありません。
 どうぞ寛いで、ゆったりとお楽しみください。

嘉屋 翔太

Shota Kaya
 2023.10.16

© KOHÁN

SUNAZALEA SUPPORT PROGRAM 『SUNAZALEA アクト企画 vol. 1 嘉屋翔太 ピアノリサイタル』
 主催：東京音楽大学 ACT Project 協働：公益財団法人 和光市文化振興公社 企画制作：市橋由里葉